

第3回 西胆振地域づくりビジョン懇談会

日 時：平成21年2月10日（火）

14：00～

場 所：西いぶり広域連合 会議室A

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) ビジョン素案の検討

3 閉 会



西胆振地域づくりビジョン（案）

平成21年2月 西いぶり広域連合

目次

第1章 地域づくりビジョンの策定について

1. 地域を取り巻く時代の潮流・・・・・・・・・・ 1
2. 地域づくりビジョン策定の背景と目的・・・・・・・・ 2
3. ビジョンの特色・・・・・・・・・・ 3

第2章 西胆振地域の現状と課題・強み

1. 人口・・・・・・・・・・ 4
2. 財政状況・・・・・・・・・・ 6
3. 農業・・・・・・・・・・ 8
4. 水産業・・・・・・・・・・ 10
5. 製造業・・・・・・・・・・ 12
6. 商業・・・・・・・・・・ 14
7. 観光・・・・・・・・・・ 16
8. 医療・・・・・・・・・・ 18
9. 福祉・・・・・・・・・・ 20
10. 教育・・・・・・・・・・ 22

第3章 西胆振地域づくりビジョン

1. まちづくりの可能性・・・・・・・・・・ 24
2. 地域づくりビジョン
 - (1) 地域のイメージアップ・・・・・・・・・・ 25
 - (2) 産業連携によるブランド化の促進・・・・・・・・ 26
 - (3) 安全・安心のまちづくり・・・・・・・・・・ 27
 - (4) 広域観光の促進・・・・・・・・・・ 28
 - (5) 広域教育の促進・・・・・・・・・・ 29
 - (6) 移住・定住の促進・・・・・・・・・・ 30
 - (7) 行財政の効率化・・・・・・・・・・ 31
3. 地域づくりのかたち
 - (1) 地域の役割・・・・・・・・・・ 32
 - (2) 地域のかたち・・・・・・・・・・ 33

地域づくりビジョンの策定について — 1. 地域を取り巻く時代の潮流

人口減少と高齢社会

- わが国の総人口は、今後急速に減少することが見込まれており、国立社会保障・人口問題研究所の中位推計によれば、平成17年からの30年間で約13%の人口が減少する。
- 同時に、少子高齢化も急速に進行し、今後30年間で、年少人口は約40%減少し、高齢者人口は約45%増加する。
- 今後、地域生産力の低下、コミュニティ機能の低下、医療や福祉を始めとするセーフティネット機能の低下、税収減少や社会保障費の増加など、社会構造の急激な変化が予測されます。

経済・雇用の停滞

- アメリカに端を発した経済不況は、国内においても自動車、半導体等の製造業を中心に大きな影響を及ぼし、未曾有の経済・雇用の危機に直面している。
- 経済の停滞と雇用の縮小は地方にも広がっており、緊急的な雇用の確保に加え、地域の特性を活かした新たな雇用創出の取組みが求められている。

地域主権型社会への移行

- 昨年まとめられた地方分権改革推進委員会の第一次・二次勧告では、上位団体との同意協議の見直しや、義務付け・枠付けの廃止が求められるなど、基礎自治体には、今後大きな役割と責任が求められる。
- 昨年末には、広域行政圏の廃止が決定され、替わって定住自立圏構想推進要綱が策定されるなど、地域の主体的な判断による自治体形成が求められている。

地域づくりビジョンの策定について

ー 2. 地域づくりビジョン策定の背景と目的

このビジョンは、「西胆振は一つ」の考えのもと、各市町の特徴を活かしたまちづくりの可能性を示すことによって、住民のみなさんが将来のまちの姿について考える契機となることを期待するものです。

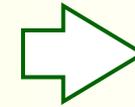
西胆振の状況

- ・西胆振の人口は、平成2年の23.3万人から平成20年には20.5万人と減少傾向にあり、今後も減少が見込まれる。
- ・平成20年の高齢化率は28.0%と、全国、北海道と比較して高くなっており、今後も上昇が見込まれる。
- ・西胆振の有効求人倍率は、道内では比較的高い水準にあるが、昨年後半からは減少傾向にあり、経済不況の影響から雇用縮小の動きもある。

+

策定の背景

- ・西胆振の6市町長は「将来、西胆振は一つ」という認識を共有している。
- ・しかし、合併して間もないまちや合併協議が整わなかったまちなど、各まちが置かれている状況には違いがある状況。



策定の目的

西胆振の将来の発展に繋がるまちづくりのあり方として、「西胆振は一つ」のもと6つのまちが一つになった場合のまちづくりの可能性を示し、住民が将来のまちの姿について考えることができる資料を作成する。

地域づくりビジョンの策定について — 3. ビジョンの特色

**6市町の強みを活かし、
地域全体が発展する視点
を踏まえる**

全国的な合併・連携協議をみた場合、往々にして財政の立て直しを柱とした行政側の見方で議論されがちでした。このビジョンは、地域全体の発展や人々の暮らしを主としたビジョンとします。

**地域の住民や関係団体の
意見を反映させたビジョ
ンとする**

西胆振地域づくりビジョン懇談会、関係団体へのアンケート調査や聞き取り調査などを通して、地域住民の意見を反映させたビジョンとします。

**他圏域とは異なる西胆振
らしいビジョンとする**

他圏域とは異なる、6市町がそれぞれの強みを活かしながら、地域資源と人材が地域内で循環・連携して発展する可能性を示すビジョンを考えます。

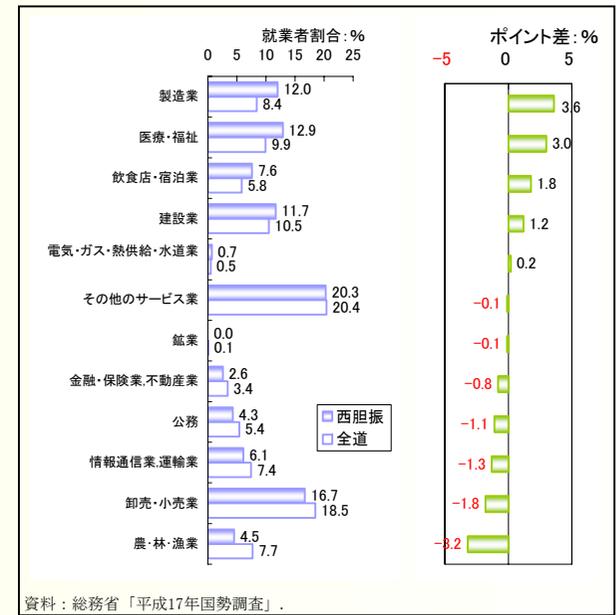
西胆振地域の現状と課題・強み - 1. 人口

現状

■西胆振の人口は、平成2年の23.3万人から平成20年には20.5万人と減少、今後も減少が見込まれます。高齢化率は平成20年に28.0%と、全道の20.3%と比較して高く今後も上昇が見込まれます。



■西胆振の産業別就業者割合をみると、全道と比較して、製造業、医療・福祉、飲食店・宿泊業に従事する人の割合が高くなっています。



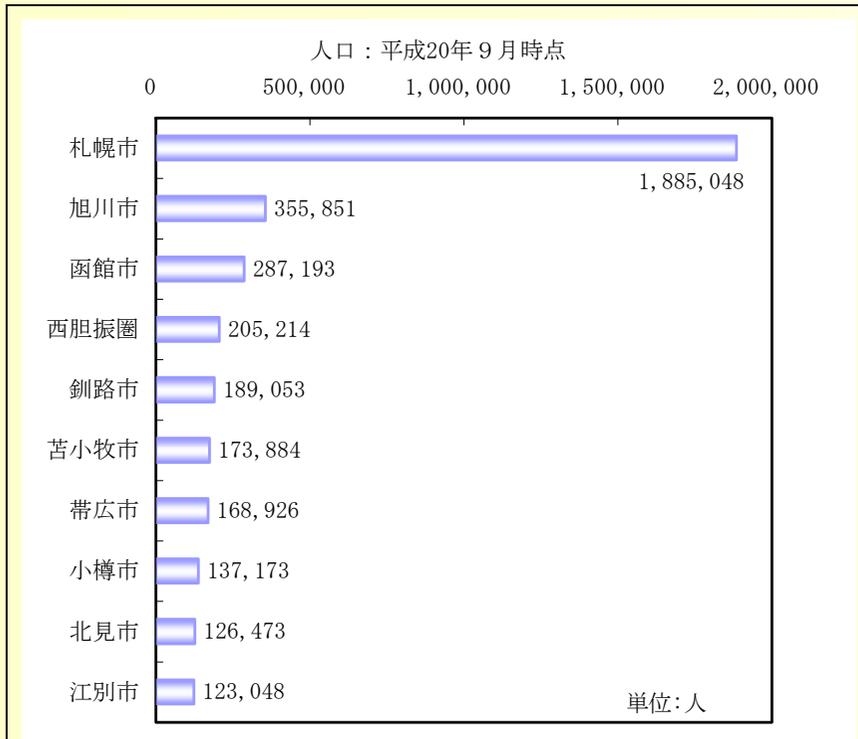
課題

- ・ 人口の維持
- ・ 増加する高齢者の生活環境の充実
- ・ 団塊世代や出産可能世代の移住
- ・ 若者層を始めとした社会的流出の抑制
- ・ 働く環境の充実

西胆振地域の現状と課題・強み - 1. 人口

強み

■西胆振を一つと考えた場合、札幌市、旭川市、函館市に次ぐ全道4位の人口



資料：住民基本台帳（人口：平成20年9月末現在値）。

注：西胆振圏は、室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の合計。

特徴的な取り組み

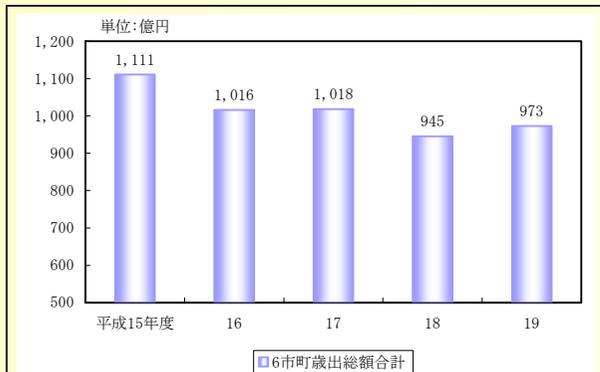
- ウェルシーランド構想・移住対策（伊達市）
- 三市・三商工会議所による高校生を対象とした企業見学会やミニ就労体験の実施
- 適職フェアの札幌市での開催（室蘭市）



西胆振地域の現状と課題・強み - 2. 財政状況

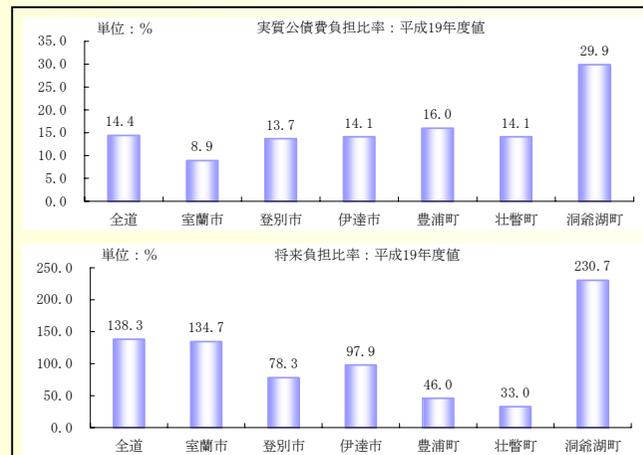
現状

■国の地方交付税の削減等に伴い財政規模は縮小傾向です。今後も、地方においては人口減少や地価下落などにより市税等の伸びは期待できない一方、高齢化の進展に伴う介護保険や扶助費など福祉関連経費は増加することが予想されます。



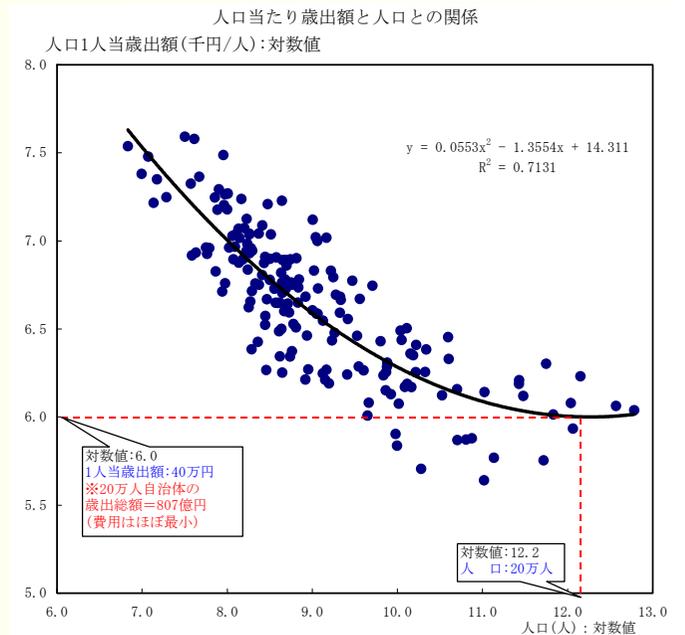
資料：北海道市町村振興協会・北海道HP「市町村の財政概要」。
注：平成14～16年度：室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、虻田町、洞爺村、大滝村、壮瞥町合計。
平成17～18年度：室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町合計。

■実質公債費負担比率は全道と同値程度、将来負担比率は全道以下の市町がほとんどです。洞爺湖町は、平成12年の有珠山噴火の復旧のための町債発行などの影響で高くなっています。



資料：北海道「平成19年度の市町村の財政状況」決算値。
注1：実質公債費負担比率とは、当該地方公共団体の一般会計が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率。
注2：将来負担比率とは、地方公社や損失補償を行っている第3セクターに係わるものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率。

※参考：北海道の市町村のデータから、人口20万人の場合、1当たり歳出額は40万円でありほぼ最小の費用となります。また、人口20万人自治体の歳出額は807億円と推計されます。



資料：北海道「平成19年度の市町村の財政状況」。
注：札幌市と夕張市を除く、北海道内178市町村の数値より推計。

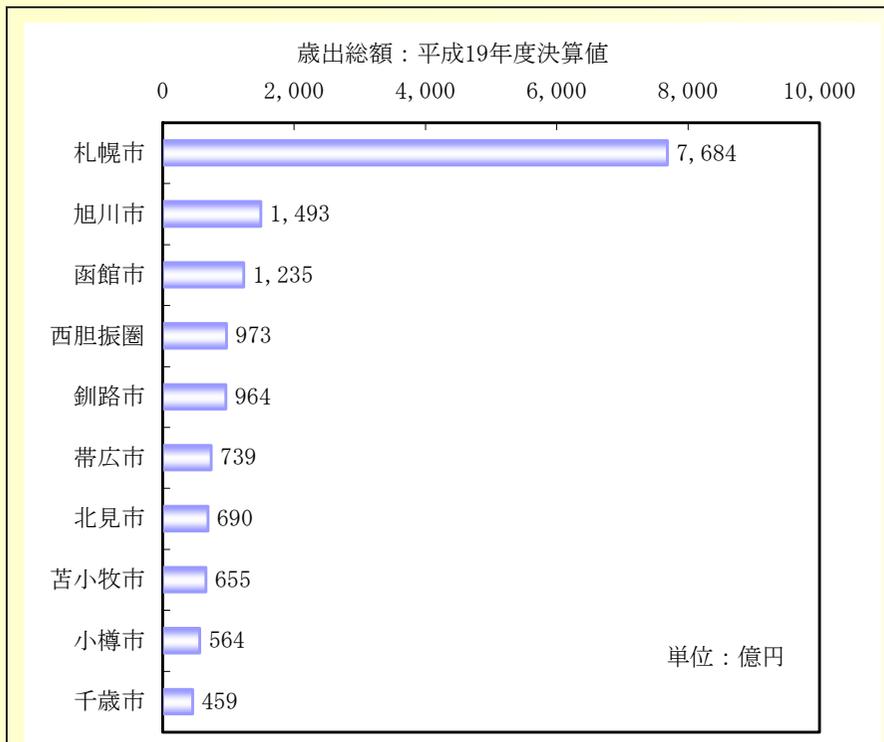
課題

- これまでの住民サービスの維持が困難に
- 厳しい財政状況の改善

西胆振地域の現状と課題・強み - 2. 財政状況

強み

■西胆振を一つと考えた場合、札幌市、旭川市、函館市に次ぐ全道4位の財政規模(歳出総額)



資料：北海道「平成19年度の市町村の財政状況」決算値。

注：西胆振圏は、室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の合計。

特徴的な取り組み

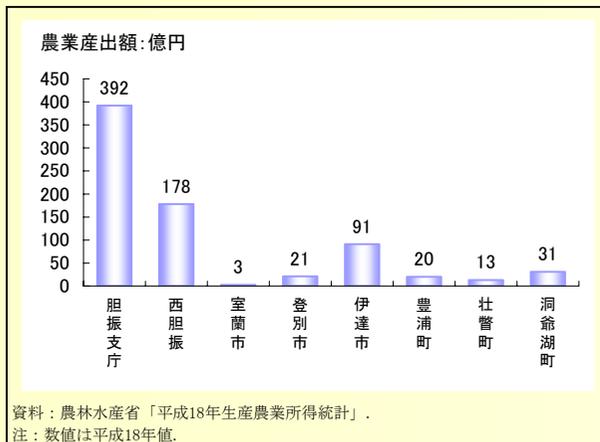
- 自治体改革プランなどによる財政健全化に向けた取り組み
- ゴミ処理や電算事務の広域連合による共同処理



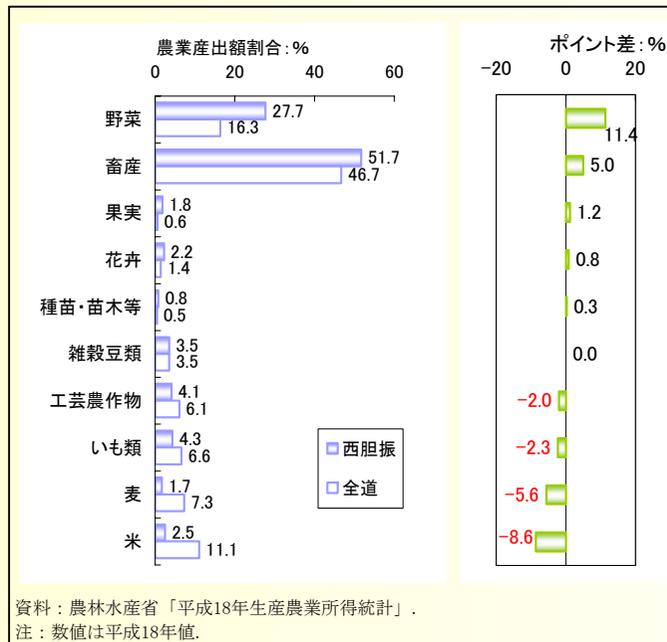
西胆振地域の現状と課題・強み - 3. 農業

現状

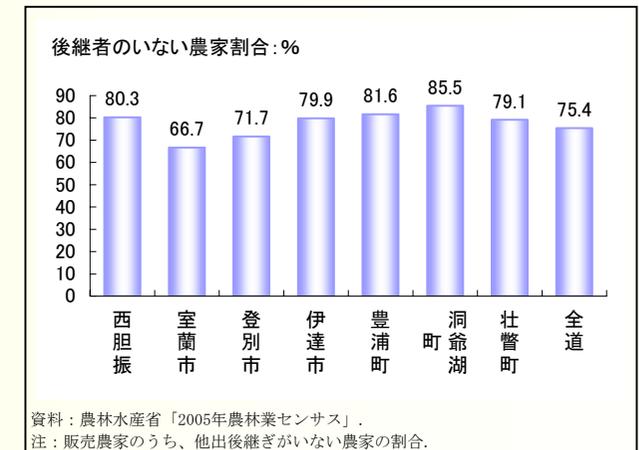
■西胆振の農業産出額は 192 億円で、うち 51%が伊達市



■全道と比較して野菜の割合が高い



■後継者のいない農家の割合が全道と比較して高い



課題

- 担い手の育成と確保・農業経営の安定化
- 原料供給中心の出荷体制となっており、生産物に付加価値がついていない
- 地産地消の取り組みが不十分

西胆振地域の現状と課題・強み - 3. 農業

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、全道 12 位の農業産出額
- 道内有数の野菜産地であり、高級菜豆等の畑作、りんご等の果樹、酪農・養豚・養鶏等の畜産も行われ、多種多様な農畜産物が生産
- クリーン農業や循環型農業による安全・安心な農産物の生産
- 温泉地の熱源を農業生産に活用できる



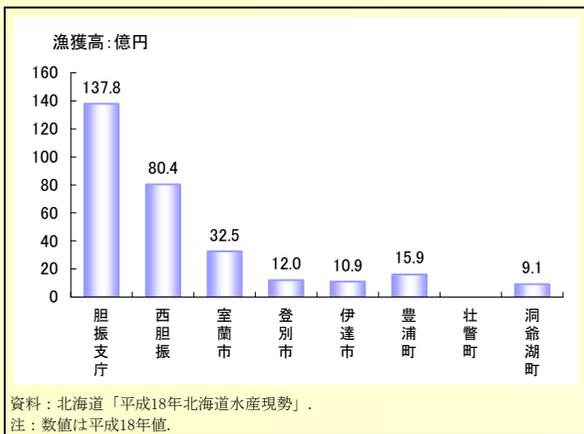
特徴的な取り組み

- 観光業と連携した農産物加工や直売所の運営（登別市）
- 木質ペレット活用や未利用資源の堆肥化による循環型農業（伊達市）
- ウェルシーフード構想による6次産業化（伊達市）
- 豊浦いちごの地域ブランド化と耕畜連携農業の推進（豊浦町）
- 担い手育成支援制度の創設（壮瞥町）
- 果樹生産、直売機能の充実等 土づくり、循環型社会の形成のため、たい肥センターを整備（壮瞥町）
- 雪蔵野菜貯蔵施設の建設とクリーン農業の推進（洞爺湖町）

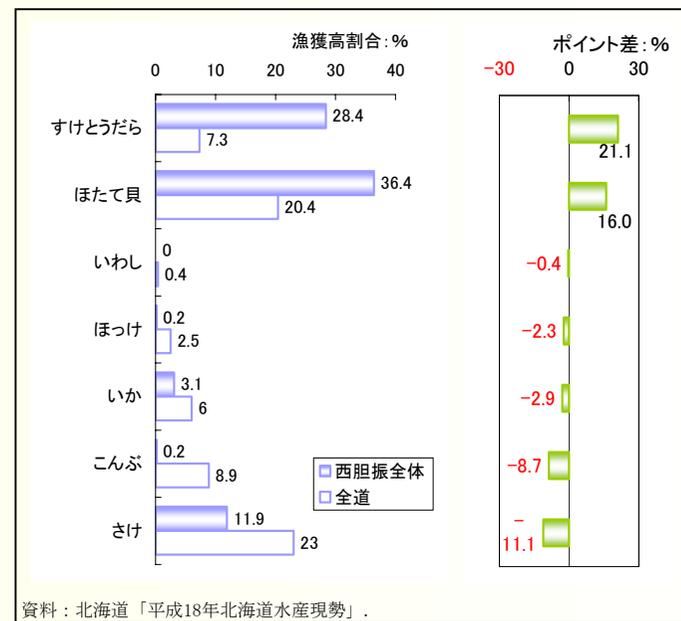
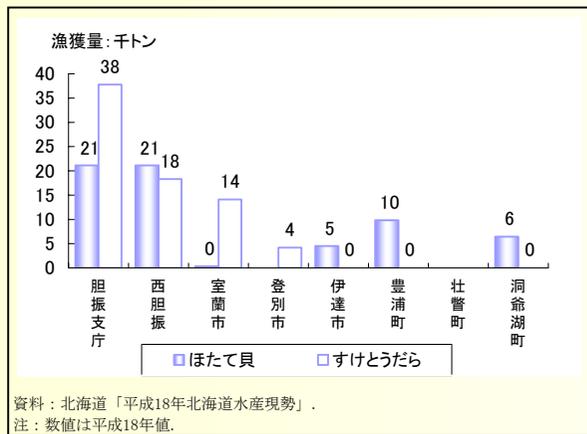
西胆振地域の現状と課題・強み - 4. 水産業

現状

■西胆振の漁獲高は、80.4 億円で、室蘭、豊浦、登別、伊達、洞爺湖の順



■ほたて貝、すけとうだらの漁獲量・漁獲高の割合が高い



■小規模零細の漁家が多い、担い手の高齢化・後継者の不足

課題

- ・担い手の育成と確保・漁業経営の安定化
- ・水産資源の維持や漁価の安定・向上に向けた取り組み
- ・地産地消の取り組みが不十分

西胆振地域の現状と課題・強み - 4. 水産業

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、全道 11 位の魚種別生産高
- 全国的にも有名なホタテの産地であり、マツカワ、クロソイ、ナマコなどブランド化に期待のかかる水産資源がある
- マツカワの資源拡大を目指す「えりも以西海域栽培漁業拠点センター」(伊達市)、栽培漁業技術開発の拠点である「道立栽培水産試験場」(室蘭市)などの研究拠点がある



特徴的な取り組み

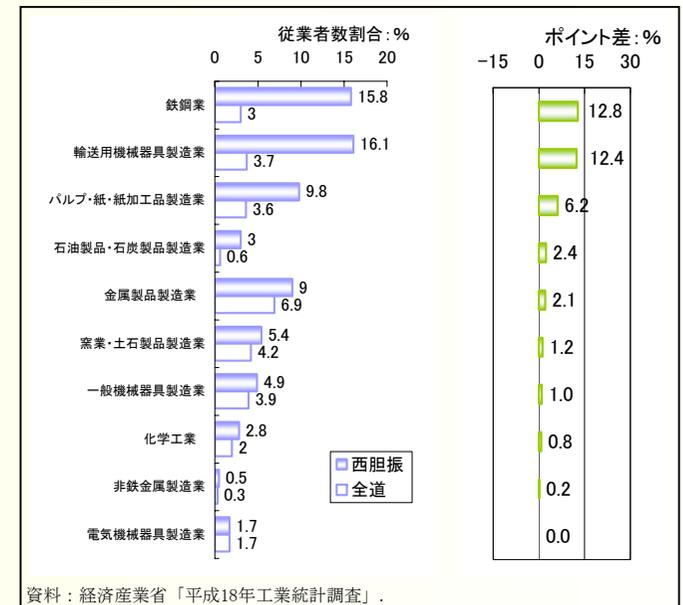
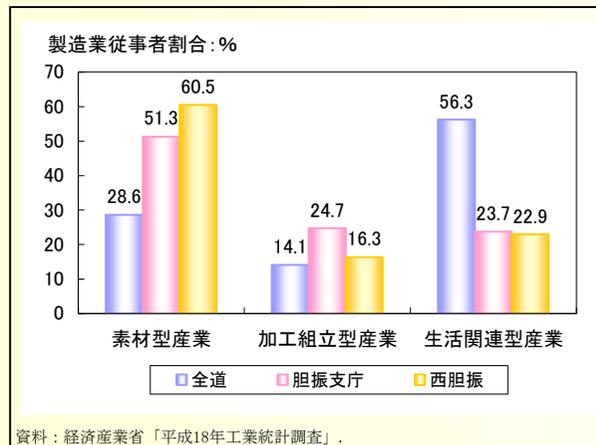
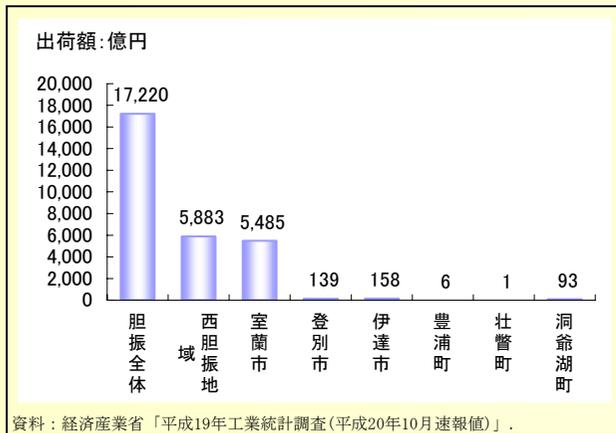
- 市の魚であるクロソイのオーナー制度の創設 (室蘭市)
- 登別・白老 (虎杖浜) 地域マリンビジョンの取り組み (登別市)
- 登別漁港産水産物のPRや観光との相乗効果を目指した直販等の実施 (登別市)
- マツカワ栽培漁業推進事業・放流事業 (伊達市)
- 東海大学との協定によるナマコ・高級魚及び水産加工品の研究開発 (豊浦町)
- ホタテ養殖の排出雑物の堆肥化と地元農家への還元 (洞爺湖町)
- ナマコの増殖礁の造成と育成 (洞爺湖町)

西胆振地域の現状と課題・強み - 5. 製造業

現状

■鉄鋼業、石油精製が大部分を占め大規模事業所のウェイトが高く、道外や海外企業との取引が多い

■地元農水産物を活用した食品製造業も点在



課題

- ・団塊の世代の大量退職により技術の継承ができない
- ・食品製造業などで地元異業種との連携が少ない
- ・中小企業の技術開発を支援する仕組みの強化

西胆振地域の現状と課題・強み – 5. 製造業

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、苫小牧市に次ぐ全道2位の製造品出荷額
- 食品加工業から鉄鋼業まで多様なものづくり企業がある
- 室蘭工業大学や室蘭テクノセンターなど研究開発や人材育成の拠点がある



特徴的な取り組み

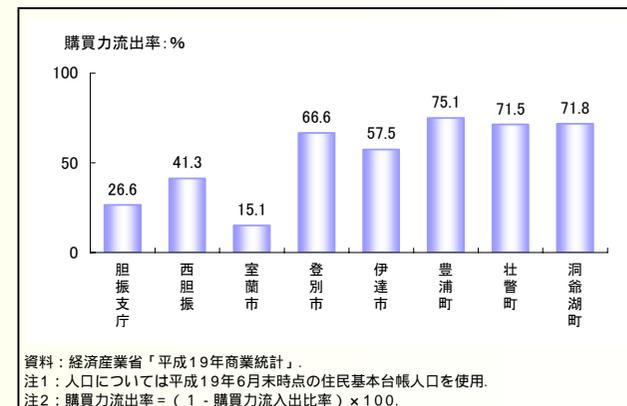
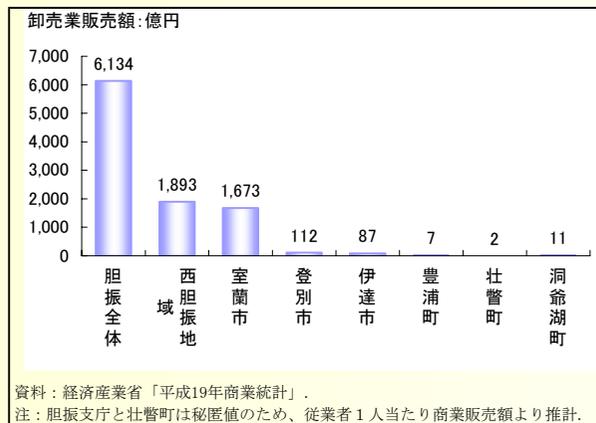
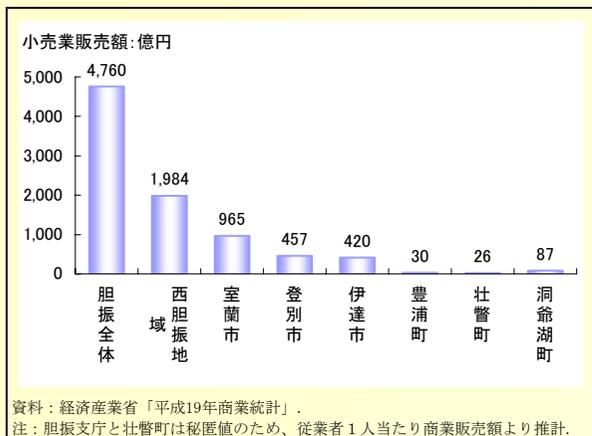
- 環境産業拠点形成の推進（室蘭市）
PCB 廃棄物処理事業の開始、廃プラスチック副生硫黄等のリサイクル事業、風力・太陽光発電の導入、水素や新エネルギーの活用研究など
- 室蘭工業大学と地元企業との共同研究の活発化（室蘭市）
- 観光を軸とした産業クラスター事業に基づく食品開発など（登別市）
- ウェルシーフード構想による食品開発など（伊達市）

西胆振地域の現状と課題・強み - 6. 商業

現状

■小売業販売額、卸売業販売額は、室蘭市、登別市、伊達市の順

■大型店の進出の影響により、地元商店街が影響を受けている



課題

- ・ 地元商店街の担い手の高齢化・後継者の不足
- ・ 大型店と地元商店街の共存

西胆振地域の現状と課題・強み — 6. 商業

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、全道8位の商品販売額
- 住民の買物ニーズに対応できる地域

特徴的な取り組み

- 「買い物は地元で」むろらんバイ（買）地域運動の実施（室蘭市）
- 買い物無料循環バスの運行（室蘭市）
- ウェルシーフード構想による地元産品の直売（伊達市）
- 道の駅併設の地場産品直売センターでの販売（洞爺湖町）

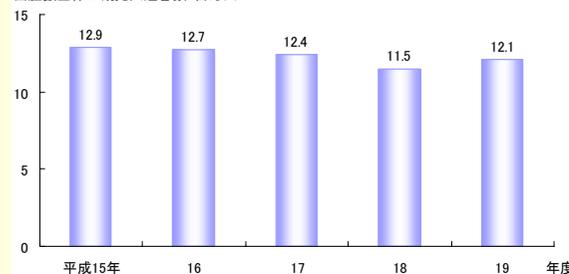


西胆振地域の現状と課題・強み - 7. 観光

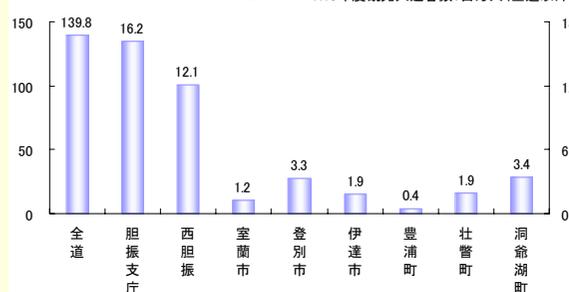
現状

- 道外客また宿泊客の割合が高い
- 少子・高齢化に伴う国内観光客の減少
- 東アジアを中心とした外国人観光客の増加
- 団体から個人、周遊型から体験型、長期滞在志向など観光ニーズの変化
- 観光と地場産業との関わりが希薄

西胆振全体の観光入込客数:百万人

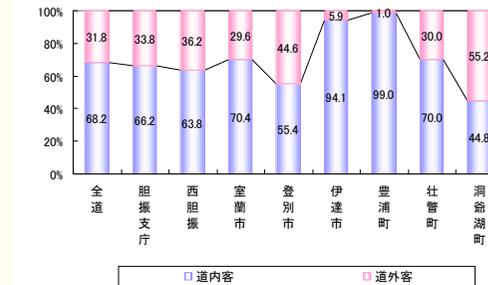


平成19年度観光入込客数:百万人(全道) H19年度観光入込客数:百万人(全道以外)

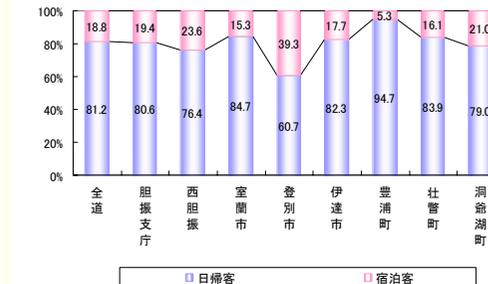


注：人口1人当たり観光入込客数＝観光入込客数÷総人口。
総人口には住民基本台帳の平成20年3月末人口を使用。

道内客と道外客の割合:%



日帰客と宿泊客の割合:%



資料：北海道経済部「平成19年度観光入込客数調査報告書」.

課題

- 観光ニーズの変化に対応した観光資源・情報のネットワーク化が不十分
- 観光と地場産業の連携に基づく地域経済圏の形成

西胆振地域の現状と課題・強み - 7. 観光

強み

- 西胆振を一つと考えた場合、札幌市に次ぐ全道2位の観光入込客数
- 全国的にも有名な登別温泉、洞爺湖温泉がある
- 北海道洞爺湖サミットの開催により世界的に知名度が向上
- 温泉、自然（癒やし空間）、体験、イベントなど多様な観光資源がある



特徴的な取り組み

- 西いぶり戦略的観光推進協議会による首都圏での修学旅行プロモーションの実施（7市町）
- 焼き鳥、カレーラーメンなどご当地グルメのPR（室蘭市）
- 工場見学やものづくり体験を核とした「ものづくり観光」の推進（室蘭市）
- 北海道観光ホスピタリティ全道大会の実施など各種イベントの誘致・実施（登別市）
- 武者まつり事業（伊達市）
- 「食・体験・温泉」など健康（癒やし）観光の実施（洞爺湖町）
- 洞爺湖周辺地域エコミュージアムの推進と日本初のジオパーク認定に向けた取り組み（伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）

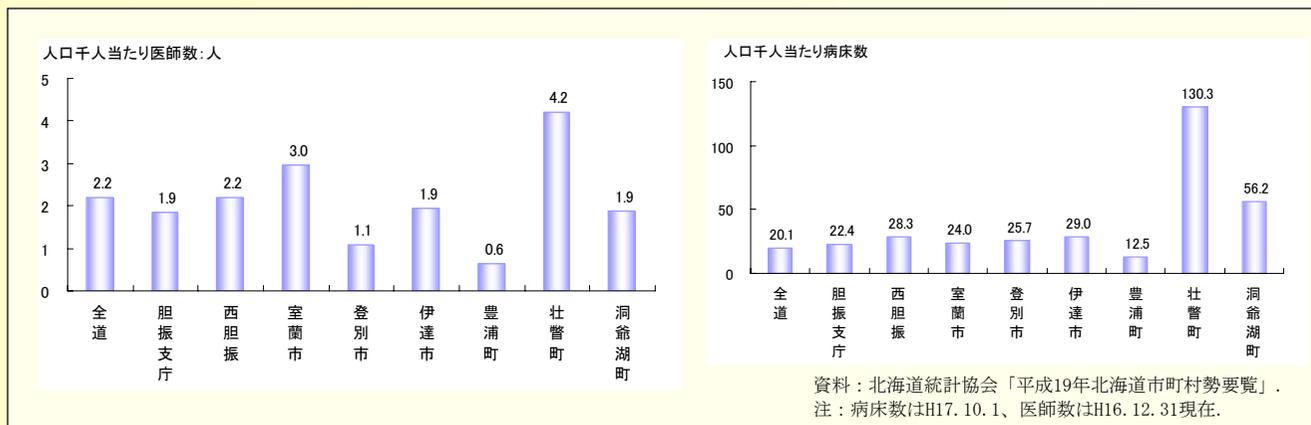
西胆振地域の現状と課題・強み - 8. 医療

現状

■西胆振6市町は、第二次保健医療福祉圏に指定されている

■地域全体として医療体制をみると、医師数、病床数は全道水準より高い

■高齢人口の増加に伴う医療需要の増加が見込まれる



課題

- 救急医療や産婦人科などの医師不足
- 高齢化が進展している地域での医療体制の整備
- 予防医療の充実

西胆振地域の現状と課題・強み - 8. 医療

強み

- 市立室蘭総合病院（室蘭市）、伊達赤十字病院（伊達市）の2つの地域センター病院があり、また病院・診療所などの連携が図られている



特徴的な取り組み

- 病院間の連携～室蘭市立病院からの産婦人科医派遣等により、休止していた日鋼病院の産婦人科とNICU（新生児集中治療室）を有する地域周産期母子医療センターが再開（室蘭市）
- 休日夜間の適正受診を広報で周知（登別市）
- 町実施検診の受託（特定健診、生活習慣病健診、肝炎検査、前立腺がん検診、内臓脂肪症候群測定、骨粗しょう症健診）（豊浦町）
- 医師による町民に対する健康づくり講話（豊浦町）

西胆振地域の現状と課題・強み — 9. 福祉

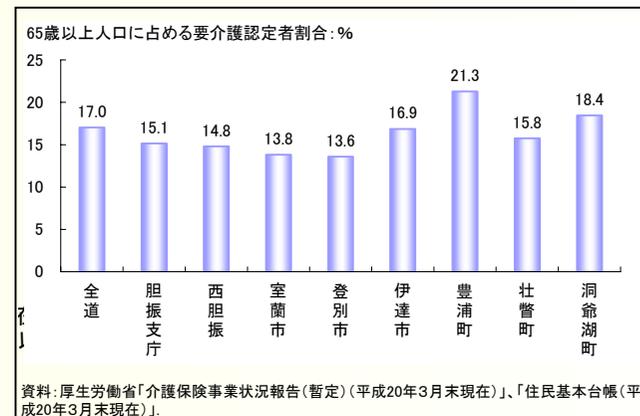
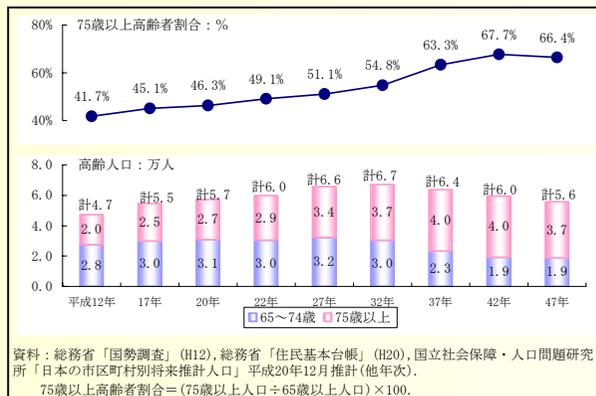
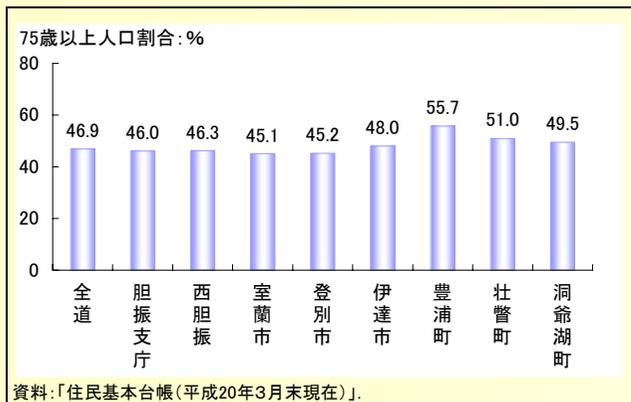
現状

■ 高齢化率は全道と比較して高い水準にある

■ 75歳以上人口の増加に伴い、要介護認定者数も増加すると見込まれる

■ 高齢化の進展により、高齢者福祉サービスへのニーズは高まっている

■ 核家族化の進展により、子育てが難しくなっている



課題

- ・ 高齢者福祉、障がい者福祉、子育て環境の整備
- ・ 介護従事者の待遇改善
- ・ ボランティア活動への市民参加

西胆振地域の現状と課題・強み — 9. 福祉

強み

- 高齢者や障がい者への支援システムや雇用環境の充実



特徴的な取り組み

- 地域ぐるみで高齢者の異変察知や生活面などをサポートする「高齢者たすけ隊・見守り隊」の創設（室蘭市）
- オレンジネット（認知症高齢者見守り事業）の活動推進（室蘭市）
- 道内初のファミリーサポートセンターを設立、家庭と仕事の両立支援（登別市）
- 幼保一元化モデル事業で認定こども園創設に向けた取り組み（登別市）
- 第3子以降児童保育料助成事業、不妊治療費助成事業（伊達市）
- 札幌医科大学と連携した生活習慣病の継続実施（壮瞥町）
- おとなりヘルパーの養成（壮瞥町）

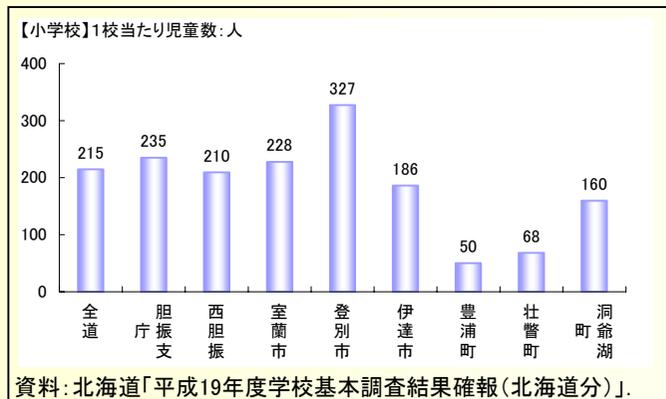
西胆振地域の現状と課題・強み - 10. 教育

現状

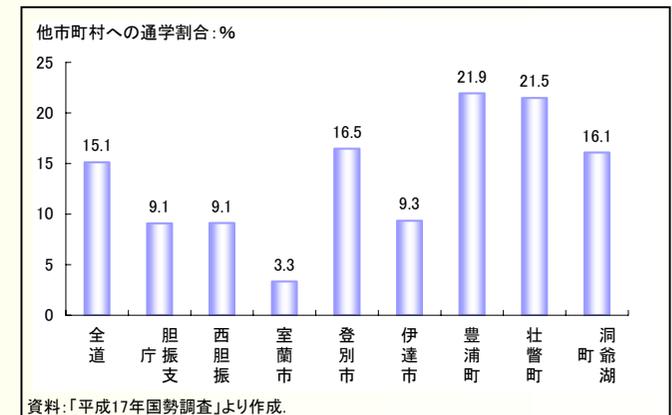
■ 少子高齢化の進展が見込まれる



■ 1校当たりの生徒数は全道と同一水準



■ 他市町への通学割合は、豊浦町、壮瞥町で2割を超えており、その多くは伊達市に通学



課題

- ・ 少子化の進展に伴う学校の再編
- ・ 子供達が地域を知り、誇りをもつための地域学の推進
- ・ 生涯学習ニーズへの対応

西胆振地域の現状と課題・強み - 10. 教育

強み

- 小学校から大学までの教育環境がある
- 農林水産業、製造業、観光業など多様な地場産業の体験学習ができる



特徴的な取り組み

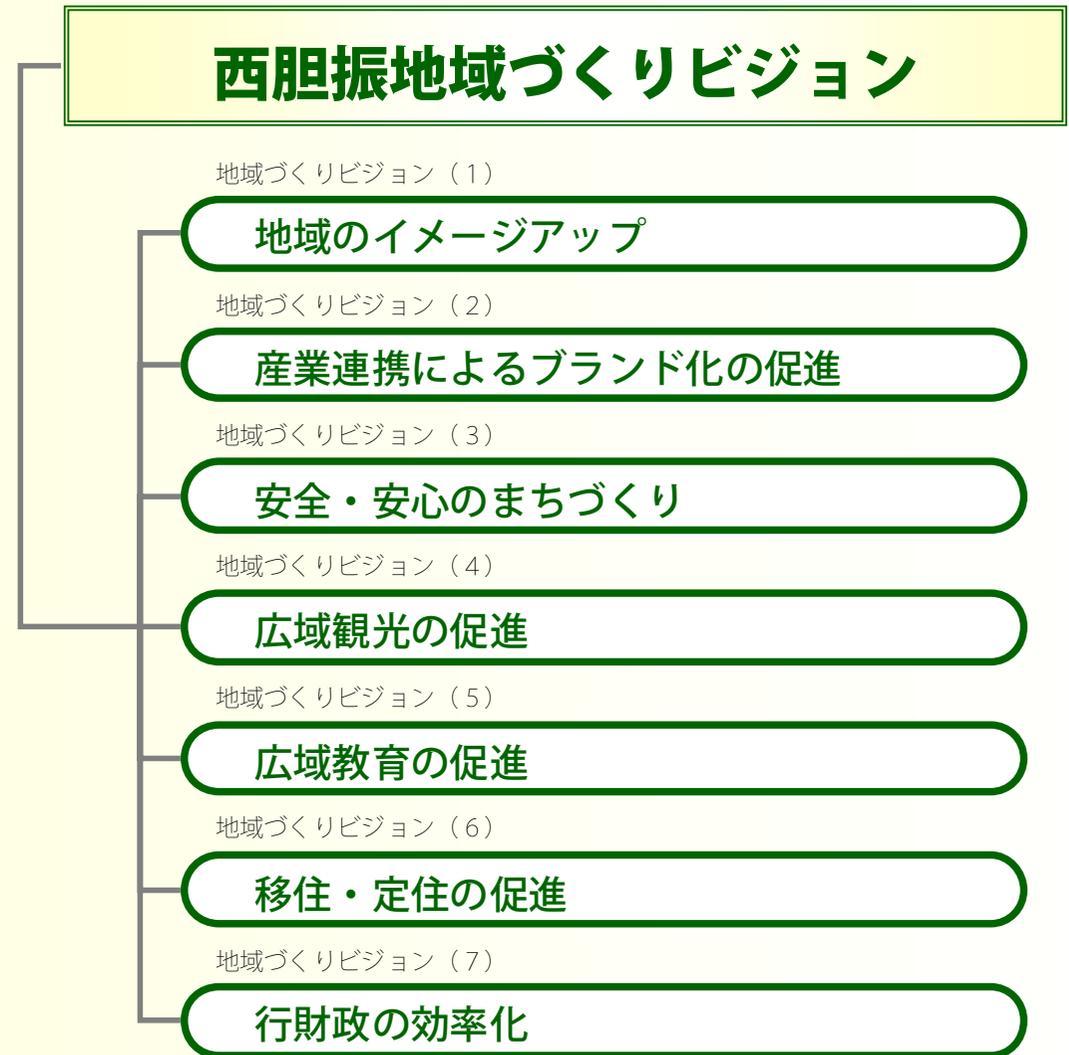
- 小学校3・4年生を対象とした港・ふるさと体験学習の実施（室蘭市）
- 登別市ときめき大学、登別市婦人短期大学、登別市こども地域交流プラザ（登別市）
- 不登校児童生徒サポート事業、特別支援教育推進事業（伊達市）
- 火山フィールドを活用した防災学習の継続開催による「減災人づくり」（壮瞥町）
- 北海道大学等、火山の専門家と連携した自然、火山防災を郷土史として学ぶ「子ども郷土史講座」（壮瞥町）
- 火山マイスター制度の導入（壮瞥町）

西胆振地域づくりビジョン — 1. まちづくりの可能性

西胆振地域は、美しい自然環境を有しており、北海道洞爺湖サミット開催により世界にその情報が発信されました。また、美味しい野菜、果樹、畜産物、噴火湾や太平洋でとれる魚介類、北海道でも有数の製造業集積地、国内でも有名な登別温泉や洞爺温泉に代表される観光、住民の暮らしに欠かせない医療・福祉施設、室蘭工業大学を始めとする高等教育・研究機関もあります。このように他地域からみても魅力がいっぱいの西胆振地域には、それらの地域資源を活かし支えている多くの人材がいます。

西胆振が一つになることにより、地域資源や人材・情報のネットワーク化を通じて地域の総合力が高まり、これまで以上に地域内で人・もの・お金・情報が循環することで、地域の課題が解決され、強みを活かしたまちづくりが可能となります。

地域の強みを活かし、西胆振が一つになることによるまちづくりの可能性について、7つのビジョンを示します。



西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (1)

地域のイメージアップ

西胆振地域は、3つの市を中心に道内では比較的大規模な人口、また美しい自然環境を有する地域であり、世界的にも有名な登別・洞爺湖温泉には多くの観光客が訪れています。

また、伊達市・豊浦町・壮瞥町を中心とする農林水産業、室蘭市を中心とする製造業、登別市・洞爺湖町を中心とする観光業など、多様な産業が集積しています。

西胆振地域では、それぞれのまちが、特性や強みを活かしながら情報発信を進めています。各地域が連携してPRすることにより、知名度の向上とイメージアップが図られます。

まちづくり
の可能性

■20万人都市としてPR

西胆振地域の総人口は20.5万人と道内4番目の人口規模であり、「20万人都市」としてPRすることにより知名度が向上する。

■来客数1,000万人観光都市としてPR

西胆振地域の観光客入込数は1,210万人と、札幌市に次いで道内2番目の集客数となっており、「来客数1,200万人観光都市」としてPRすることにより知名度が向上する。

■環境都市としてPR

北海道洞爺湖サミットで世界に発信された美しい自然環境、工業地域を中心に集積する企業・大学の環境技術、農業と連動した有機性廃棄物のリサイクルの取り組みなどを一体的にPRするとともに、地域内で共有することで、「環境都市」として知名度が向上する。

■マルチ産業都市としてPR

西胆振地域には、1次～3次の産業が集積しており、多様な雇用機会を提供できる「マルチ産業都市」として知名度が向上しPRできる。



西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (2)

産業連携によるブランド化の促進

温暖な気候や豊かな自然に恵まれた西胆振地域には、野菜・果物等の農産物をはじめ、ホタテ等の豊富な水産物があります。また、道内でも有数の製造業集積地域であり、室蘭工業大学やテクノセンターなどの試験・研究機関もあります。

西胆振地域では、それぞれのまちで農水産物等のブランド化に取り組んでいますが、各地域の特色ある産業が連携することにより、消費の拡大やブランド化が促進されます。

まちづくり
の可能性

■循環型都市としてブランド化

ペレットストーブの普及について、室蘭の製造技術を活用したストーブ生産や、地域連携でのストーブ購入費助成等により、域内需給が可能となり、循環型都市としてブランド化が促進される。

■西胆振農業特区で経済活性化と雇用の創出

西胆振農業特区として、農業法人を育成・誘致し、農業高校卒業生・社会人を積極的に引き受け雇用の場を創出するとともに、体験観光などのグリーンツーリズムを推進することにより、地域として農業のブランド化が図られる。

■西胆振水産物のブランド化

噴火湾のホタテ、太平洋沿岸のクロソイやホッケ、マツカワなど、地域単位でブランド化が進められている水産物について、西胆振ブランドとして国内・世界に向けて一体的なPRや西胆振水産物オーナー制度の導入等により消費の拡大が図られる。

■地産地消の推進

西胆振の農水産物や加工品について、食育も視野に入れた学校給食等における活用や、登別・洞爺湖温泉ホテル等の食材としての活用、西胆振の特産品を扱う直売所・市場等の設置により地産地消が推進される。

例えば・・・

地域内で製造したペレットと、地域の製造技術を生かしたストーブを域内に普及



西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (3)

安全・安心のまちづくり

西胆振地域は、道内では比較的医療体制の整った地域ですが、医師の確保や救急医療の確保が懸念される地域もあり、地域内の病院間連携を深めることにより、生活を支える安定的医療体制の確保が可能となります。

また、西胆振地域には、周期的に噴火が繰り返されてきた有珠山の噴火を始め大規模災害時の避難等について、地域内の連携を深めることにより、火山と共生した地域の暮らしが可能となります。

まちづくり
の可能性

■安定的医療体制の確保

市立室蘭総合病院・伊達日赤病院・登別厚生年金病院・豊浦町国民健康保険病院等の、西胆振地域の病院連携により、医師の確保、相互派遣、救急医療体制が確立され、地域の安定的な医療体制が確保される。

■安定的な福祉体制の確保

社会福祉協議会、福祉施設、ボランティア等の連携により、介護士や保育士、ボランティアの確保や相互派遣を確立するとともに、地域の高等学校や専門学校及び関係機関が連携し、人材の養成と確保を図り地域の安定的な福祉体制が確保される。

■大規模災害時の円滑な避難対応

有珠山噴火を始め大規模災害時における、避難場所の確保や生活物資の供給、仮設住宅の供給等において、西胆振地域の連携により迅速かつ円滑な避難対応が可能となる。

例えば・・・

大規模災害を想定した、地域一体となった避難対応について検討



西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (4)

広域観光の促進

西胆振地域には、北海道洞爺湖サミットの開催でPRされた美しい自然、有珠山や昭和火山などの活火山、国内でも有名な登別・洞爺湖に代表される温泉、美味しい野菜、果物、畜産物、噴火湾や太平洋でとれる水産物、北海道でも有数の製造業、四季を通じた多様なイベントがあります。

このような観光資源のネットワーク強化を進めると同時に、地域観光全体の視点で観光人材の育成や戦略的なプロモーションを展開することにより、観光客のさらなる誘致と観光産業の活性化が図られます。

まちづくり
の可能性

■多様な体験型観光プログラムの提供

広域での観光ルートの提供に併せて、伊達・壮瞥の農業体験、伊達・壮瞥・洞爺湖の自然や火山防災体験、豊浦の漁業体験、室蘭のものづくり体験など、多様な体験プログラムの提供を行なうことにより、体験型観光を志向する修学旅行・観光客の誘致促進が図られる。

■地域観光スペシャリストや観光ボランティアの育成

「火山マイスター」など地域の観光・文化・歴史等に精通したスペシャリストや、高いホスピタリティを有する観光ボランティアなどを戦略的に育成し、地域全域に配置することにより、観光客の満足度向上とリピーターの獲得が図られる。

■「西胆振観光基金（仮称）」とその運用組織の創設

観光収入の一部を基金として集約し、それを財源とする観光専門組織を立ち上げ、地域全体のプロモーションや観光人材の育成、観光戦略構築のための調査研究などを行うことにより、持続的な発展が可能となる。

例えば・・・

多彩な体験型観光プログラムの提供により、
観光客が増加、満足度も向上！！



西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (5)

広域教育の促進

西胆振地域には、多様な自然環境や1次～3次までの産業が揃っており、それぞれのまちにおいて特色を活かした故郷学習や職業体験等が行われていますが、地域が連携することで、多様な地域特性や職業を知る教育活動が可能となります。

また、西胆振地域には、専門課程を有する高校や室蘭工業大学など、幅広い人材育成が可能な教育機関がありますが、少子化の進展により、生徒数や間口の減少が進んでおり、地域が連携することで、教育機関の維持や特色ある専門教育の展開が図られます。

まちづくり
の可能性

■小学生対象の幅広い体験学習

伊達・壮瞥の農業、伊達・壮瞥・洞爺湖の自然や火山防災体験、豊浦の漁業、室蘭の製造業、登別・洞爺湖の観光業など、西胆振地域の多様な産業を活かし、小学生等を対象とした幅広い体験学習が可能となる。

■室蘭工業大学と連携した理科教育の推進

室工大と連携した、出前授業や総合学習等の展開により、西胆振地域において先進的な理科教育の展開が可能となる。

■1次～3次産業の幅広い人材育成

工業、商業、農業など、専門課程を有する西胆振地域の高校間の連携により、1次～3次産業に関わる幅広い人材育成が可能となる。また、これらの専門教育機関と小中学校との交流を図ることで、身近な学校としての親近感が高まる。

■地域内の歴史・文化の学習・発表機会の創出

小学校等で学習する地域固有の歴史や文化について、西胆振地域全体で学習交流する機会を創出し、相互理解を深めることにより、地域内連携の円滑化に寄与する。

例えば・・・

多彩な体験型観光プログラムを、地域特性や職業を知る教育活動に活用！！



西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (6)

移住・定住の促進

西胆振地域では、伊達市をはじめとして移住促進の取り組みが行われていますが、西胆振地域の様々な魅力をPRすることで、首都圏などからの季節居住者や退職世代の移住希望者の多様なニーズに応えることが可能となり、移住促進が図られます。

とくに、経済の景況感や雇用情勢が悪化している今日、道内及び全国から就労を伴う移住希望者が増える可能性があり、西胆振地域が一体となって取り組むことで、移住者の増加が図られ、福祉や農業など担い手が不足している分野で働いてもらうことが可能となります。

まちづくり
の可能性

■ 季節居住の促進

西胆振地域の特性を活かした、体験・観光・スポーツ等の幅広い滞在プログラムの提供により、季節居住志向の高まりに対応した交流人口の増加が図られる。

■ 退職世代の移住促進

西胆振地域の豊かな自然や、観光資源、都市機能、雪の少なさなど、総合的な暮らしやすさをPRすることで、退職世代の移住促進が図られる。

■ 就労を伴う移住促進

西胆振地域の農業、水産業、製造業の魅力や豊かな自然環境をPRすることで、雇用の場として就労を伴う移住の促進が図られる。



季節移住

退職移住

職移住

それぞれのライフスタイルに応じた
多様な居住環境の提案が可能

西胆振地域づくりビジョン - 2. 地域づくりビジョン (7)

行財政の効率化

地方分権改革の進展により、自治体に求められる役割や責任が大きくなる中で、基礎自治体としての権限強化が図られています。

西胆振地域では、広域連合を中心に行政事務や施設整備などの広域連携が行われていますが、さらに自治体として一つになった場合は、自治体の権限強化や、行財政の効率化が図られ、効率的な職員配置や住民サービスの維持・向上が可能となります。

まちづくり
の可能性

■効率的な職員配置

総務など重複部署の職員配置の見直しを行うことで生じた財源により、単独では廃止・縮小が避けられなかった住民サービスの維持や、住民ニーズの高いまちづくり施策に重点的に投資することが可能となる。

■基礎自治体としての権限強化

20万人の基礎自治体として、地域の実情にあった権限移譲を受けることが可能となり、保健師など専門職員の配置による充実した住民サービス提供が可能となる。

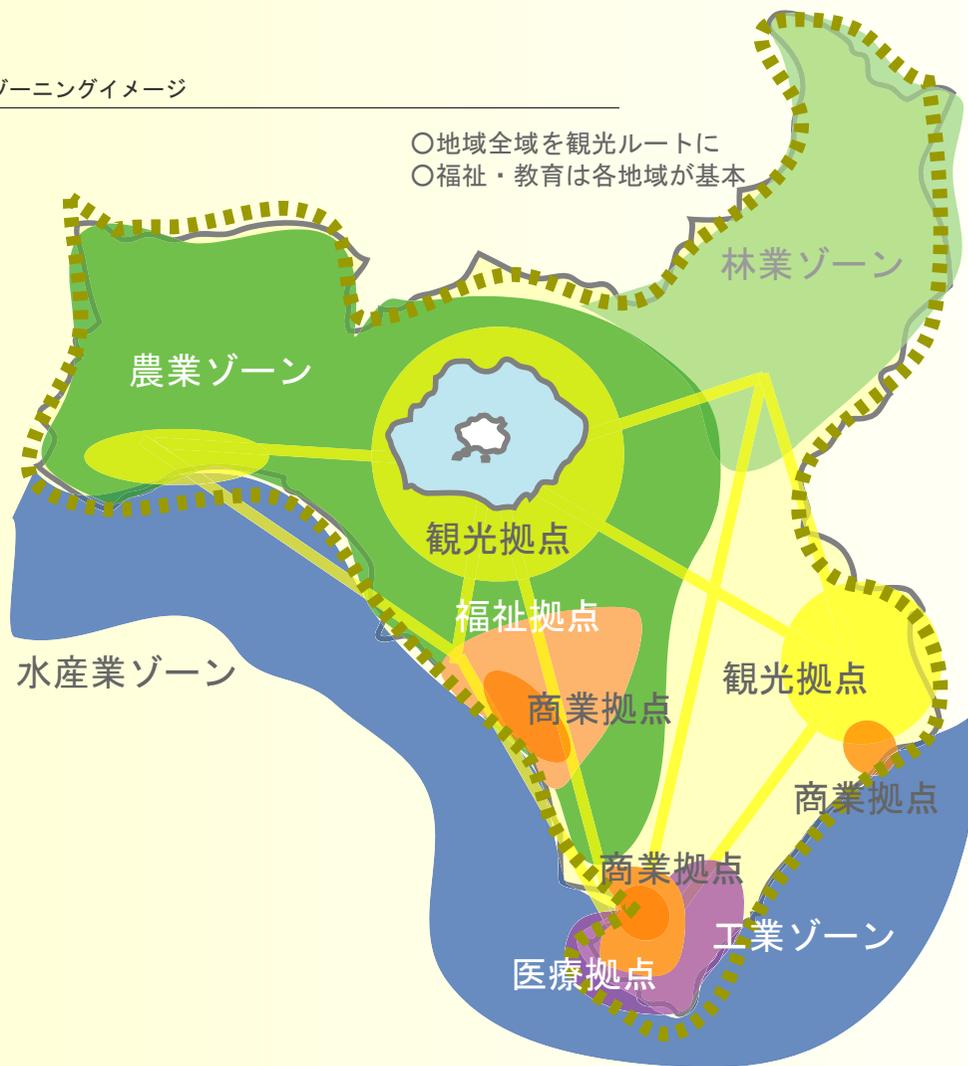


西胆振地域づくりビジョン - 3. 地域づくりのかたち

地域の役割

- 西胆振のまちはそれぞれが強みを持っています。
- 今後の人口減少と高齢化の進行により、単一自治体で住民サービスを完結することは困難が予想され、次代を担う子どもたちのためにも将来のまちのかたちについて真剣な議論が必要です。
- 自立したまちとして生き残るためには、それぞれのまちの強みを活かしながら連携を深め、一つのまちとしての総合力を発揮することが必要です。

ゾーニングイメージ



西胆振地域が一つとなった場合の各地域が担う役割

- 農業** 伊達市、壮瞥町、豊浦町が中核、洞爺湖町も一定の役割を担う
- 林業** 伊達市（大滝地区）が中核も地域を支える産業とはなりにくい
- 水産業** 豊浦町が中核、壮瞥町を除く他の市町も一定の役割を担う
- 工業** 室蘭市が地域における工業の中核
- 商業** 室蘭市を中核としつつ、市部が一定の役割を担う
- 観光** 中核は登別市、洞爺湖町、壮瞥町で、豊浦町にも観光資源あり
- 医療** 市部に集約、室蘭市と伊達市が中核となり地域医療を牽引
- 福祉** 各市町が地域福祉を担いつつも、伊達市が福祉拠点
- 教育** 各地域が取り組むべきものだが、高等教育等は室蘭市が核となる

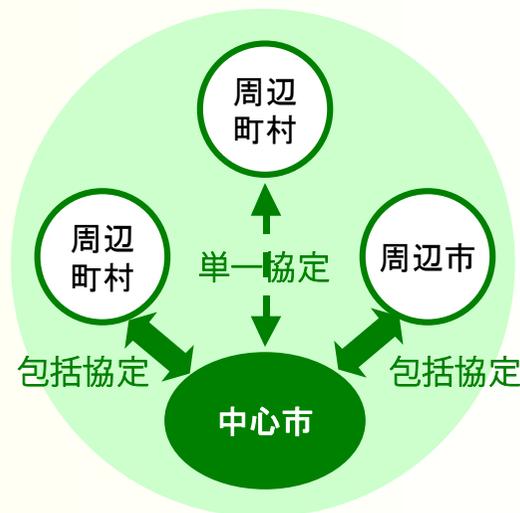
西胆振地域づくりビジョン - 3. 地域づくりのかたち

地域のかたち

- 西胆振地域が一つのまちとして総合力を発揮するために、新しいまちの姿を考えることが大切です。まちの形としては、「合併」だけでなく、「広域連合」、「定住自立圏」などもあります。
- 行財政の効率化の面から言うと合併は最も効果的な手法であり、西胆振地域の場合、北海道が道州制特区の中で提案を検討している「広域中核市」として、政令市並みの権限を持ちながら効率的な住民サービスの展開も考えられます。
- また、西胆振地域の現状を考えた場合、仮に合併を選択した場合でも段階的に進めていく選択も検討できます。
- 合併、広域連携いずれも「目的」ではなく「手法」であり、今後、具体的な連携方策の検討と取り組みを進め、住民意識の醸成を図る中で、地域のかたちを選択することが必要です。

定住自立圏とは

中心市と周辺市町村が協定を締結し、中心市の機能と周辺市町村の機能が有機的に連携することで、定住のための暮らしに必要な諸機能を総体として確保する仕組みのこと。



広域中核市とは

広域中核市とは、第2次保健医療福祉圏を構成する市町村が合併した場合に、政令市並みの権限を与え、それに応じた財源措置が実施される仕組みのこと。

